

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 16 日作成)

小委員会名	伝統的木造建築物構造設計検証小委員会	主 査 名：大橋好光 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：塩原 等 主 査 名：河合直人
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>3 年間「伝統的木造建築物設計事例整備小委員会」において、学会の「限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針」に基づく、設計事例を作成してきた。しかし、上記の指針が、耐力壁や接合部などの要素のデータが必ずしも十分でなく、前半は、それらのデータの収集と設計法の作成に時間を費やした。その後、前述の作業が概ね、収束したことから、初期の目標である設計事例の作成を実施してきた。住宅規模 2 例と、寺院建築 1 例について、概略の設計事例をまとめた。しかし、それらも出版物にするには、まだ、十分には細部が詰められていない。また、設計事例も十分ではない。そこで、それらの精査と事例の追加を中心に委員会を開催し、更に、それらの設計事例の構造設計プロセスについて、設計を行っている実務者らに意見を求め、その妥当性・合理性を検証する。当小委員会の結果は、上記指針の改訂版として出版を目標とする。</p> <p>初年度：①「限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針」の構造要素の設計法を完成させる。 ②「住宅タイプ 1」、「住宅タイプ 2」の設計例を精査・検証する。</p> <p>2 年度：①「寺院タイプ 1」の設計例を精査・検証する。 ②「社寺タイプ 2」の設計例をまとめる。</p> <p>3 年度：以上をまとめて、「限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針（改訂版）」をまとめる。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：大橋好光 (東京都市大学) 幹事：中尾方人 (横浜国立大学大学院)、藤野栄一 (職業能力開発総合大学校) 委員：河合直人 (工学院大学)、坂田弘安 (東京工業大学)、荘所直哉 (明石工業高等専門学校)、北守顕久 (京都大学生存圏研究所)、山崎義弘 (建築研究所)、山田耕司 (豊田工業高等専門学校)、佐藤弘美 (金沢工業大学)、宮本慎宏 (香川大学)、宇都宮直樹 (近畿職業能力開発大学校)、清水秀丸 (椋山女子大学)、横内基 (国士舘大学) 中川貴文 (京都大学生存圏研究所)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	伝統的木造建築物設計例WG：委員の構成は大学関係者が多いため、設計例を作成するために実務に長けた委員を中心にWGを構成する。	
2020年度予算	110,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：—

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	
大会研究集会	2020年度大会(関東)諸行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 「限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針」の要素の設計法を検討した。 設計例 4 棟について、その構造設計を検討した。 設計法作成のために、データの少ない接合について、別途の補助金を獲得して、実験計画を立案した。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの関係で対面による会議を行うことができない。ただし、Zoom による委員会開催としているが、出席率は必ずしも悪くない。